

五期俳句会 第七十回 十月六日

今回は浅香さんが旅行でお休み、それに出句も句会が終わって  
から塩田さん宛てに届く。 選句を一任されたが、ご主人が現  
代俳句を主催されてるせいで、二句一章の様なのが有って困り  
ました。

うたた寝にそっと掛けたり秋毛布

久貝貞子

名月に風を聞きつつ友偲ぶ

今井由紀子

線路わき束で咲をり彼岸花

松浦武子

稲実る黄金の絨毯敷きし如

松浦武子

穏やかな木魚の音や秋回向

塩田亘子

彼岸花土手鮮やかに風そよぐ

今井由紀子

新じゃがのコロツケ提げて来る漢

おとこ

浅香さとみ

残照やあかねぼかしの秋序章

塩田亘子

せきりよう  
寂寥の寺苑似会いの時雨かな

塩田亘子

昇り来し十六夜の月大きけり

松浦武子

ふと目覚め時計うたがう夜長かな

久貝貞子

十五夜の月煌々と孤高なり

塩田のぶこ

いわれなく受け入れている敬老日

浅香さとみ

葉陰よりゆらり動きし秋の蝶

今井由紀子

秋灯や夫は読み居り眠りをり

今井由紀子

ほんの少しだけど、体調が思わしく無かったので、この作業も遅れても仕方ないと思っていましたが、やり掛けて途中で置くのもいやなので、一気に仕上げました。

二度見ましたので間違いないと思います。